

アーリントン公立学校

いじめ予防と介入計画2016年9月

I. リーダーシップ

ザ・いじめの予防と介入の計画に直接影響アーリントン公立学校2016年から2017年地区目標。地区目標は、具体的には、社会的、感情的、ウェルネスサポートの統合に取り組みます。これは、いじめの予防と介入のための専門的な開発とカリキュラムの統合が含まれます。

アーリントン公立学校では、各レベルだけでなく、いくつかのサブでグループを組織しました-コミュニティ全体でいじめ防止の評価と戦略を取る委員会。これらの例は、管理者、教師などが、ビルは委員会、諮問委員会、親フォーラム委員会、青少年のリスク行動委員会などを尊重します。

教師は報告し、いじめの発生率に介入だけでなく、抗いじめカリキュラムを実施します。地区の管理者は、いじめの疑惑の調査、文書の発生率を追跡対応し、安全目標を維持するために介入し、目標と侵略の両方のためのサポートサービスを確保します。警察は捜査手続において極めて重要であり、犯罪者/ハラスメント料を特定します。

ニーズとリソースを評価します。

- 調査は、観客適切に構成されているクラスの質問に保護含まれ、地元の懸念に対処します。青少年のリスク行動調査は、いじめやネットいじめにいくつかの質問が含まれ、中学校及び高等学校レベルで隔年で投与されます。この情報は、行動のパターンを識別し、カリキュラム開発、プロの開発、年齢に適したカリキュラム、サポートサービスの割り当て、および親教育、などの予防戦略のための意思決定を通知するために役立っています。ソーシャルワーカーは、各小学校で雇われている、追加のメンタルヘルス臨床医は、中学校とアーリントン青少年相談センターで雇われている予防戦略をいじめの学校と協議しています。
- 少なくとも一度4年20162017学年で始まる（またはDESEが調査を承認するよう）、学区は、初等中等教育のマサチューセッツ州省は、学校の気候やいじめの有病率は、性質及び重症度を評価するために、学生のアンケートを開発し管理します私たちの学校インチまた、学区が毎年DESEにいじめインシデントデータを報告します。
- 小学校では、学校の気候を評価するためにメンタルヘルスのスタッフと共同で研究に基づく評価ツール（IE応答教室とオープンサークル）を使用します。

計画と監督。

- 学校の警視、警視補、ウェルネスのディレクター、ビル管理者は、計画の実施を担当しています。
- プリンシパルK5、校長/アシスタントプリンシパル68、及び高等学校学部長912は、報告を受け調査を実施し、いじめの確認発生率の目標と侵略の両親を接触させ、そしてにこれらを入力するための責任がある各学校で指名されています
Powerschool。
- ソーシャルワーカーとガイダンスカウンセラーが提供し、目標と侵略の両方の個人やグループ支援の進捗状況を監視します。
- プリンシパルは、毎年、認識の対応といじめの手順を報告に関する情報を提供

- 開発した学校委員会のし、いじめの防止との方針を承認した 介入（
<http://www.arlington.k12.ma.us/asc/policies/jicfb.pdf>）
- 行動、学校のハンドブック、およびインシデントレポートの形式や調査フォーマットのコードは、改訂されました
- 親リソースがいじめやネットいじめに対処するためにウェブサイトに掲載されて。
http://www.arlington.k12.ma.us/emergency_preparedness/pages/resources.html#resources_bullying

アーリントン公立学校優先声明

アーリントン公立学校は、いじめやいじめのない安全な学習環境で、すべての学生に提供することにコミットしている。このコミットメントは、学習と、強い弾力性、そして親切市民防止と教育プロセスを妨げる可能性がいじめやその他の有害と破壊的行動のすべてのフォームを排除しながらの開発を促進するための包括的な取り組みの不可欠な部分です。

我々はさらに、特定の学生は人種、肌の色、宗教、祖先、国籍、性別、社会経済的地位、ホームレス、学術的地位、性同一または発現を含む実際のまたは認識の特性に基づいて、いじめや嫌がらせの対象になるため、より脆弱である可能性があることを認識します持っているか、これらの特性の1つ以上を有すると認識された人と、物理的な外観、妊娠中や育児状況、性的指向、精神的、物理的、発達や感覚障害または会合によって。私たちは、脆弱性、学生、スタッフや親/保護者からの観察または直接レポートを通じて教師、指導カウンセラーや管理者の注意を喚起された学生へのサポートを提供します。このサポートは、いじめや嫌がらせに対応するためにいじめと彼/彼女のスキル、知識と戦略を報告する学生の能力の両方をサポートするためのカウンセリングおよび/または教育の形であってもよいです。

II. トレーニング&プロフェッショナル開発

計画上の年次スタッフのトレーニング。

計画の年次訓練が行われた、すべての学校職員のために継続すると、このような校長または指名は、いじめの報告書の受領または時に続くことを報告し、応答、手順の概要として、計画に基づく具体的なスタッフの業務を含み、報復、そしていじめ防止カリキュラムの概要は、学校や地区全体のすべてのグレードで提供されます。彼らは最後の2年以内に許容できると同等のプログラムへの参加を証明することができない限り、学校年度の開始後に雇わスタッフは、彼らが雇用されている学校年度中地区手順の研修を受けたこととなります。スタッフは、彼らが計画していじめに関する方針を見ることができる場所の年間を思い出しています。

継続的な専門能力開発

専門の開発は、違いのため、安全性、市民のコミュニケーション、及び尊重を促進し、学校の気候を作成するための努力のスタッフに提供されます。プロフェッショナル開発は、予防特定し、いじめに対応するためにスタッフのスキルを構築します。：取り組みが含まれて

- 青少年のための研究ベースのプログラム、諮問プログラム、ミドルセックスのパートナーシップの様々な上の教師のトレーニングを、そして他の人が継続します。
- いじめ防止とマンドートの管理者のための管理のトレーニング。ナンシー・ネビル、1 2016

- IEPの書き込み/社会的スキル初日のすべてのIEPミーティングと年次レビューで検討をいじめ月特殊教育研修
- 学校弁護士レベッカ・ブライアント（2013年7月）によるサイバーいじめの管理訓練
- すべての教師とスタッフのための学校のプレゼンテーションの年次いじめの法則と「認識し、対応および報告」のための手順に関する。
- 新しい先生の向きは、「教室の管理」研修が含まれます。
- スタッフと学生の不正行為を是正するために設計されたスタッフによって許容経営行動を区別するための計画の実施と監督の責任者を従事、学校の設定などに責任を植え付けると、いじめの行動。
- ソーシャルワーカー養成、3013の「社会的思考」秋
- 過去の研修には：エリザベス・イングランド（MARC）-すべてのスタッフ、サイバーいじめにユーストレーニングのためのミドルパートナーシップ、「認識し、対応し、いじめや嫌がらせの報告」率いるすべての教師とスタッフのためにリチャード・コール、公民権弁護士と安全な学校コンサルタント、そしてフィル・Fogelmanにより、名誉毀損防止同盟から、に 違いのの世界 中学校、EDCOコースでの特殊教育の教師の出席「の学校気候プログラム被害者のためのIEPの要件に対処し、加害者」
- 特殊教育管理者、チームの椅子、教師、カウンセラーは、いじめのターゲットによって必要なスキルとその行動いじめや加害者と予防や学生のためのいじめや報復に対応するための方法の定義を満たし、それらの両方に対処するために訓練されました適切な個別教育計画（IEPS）を開発するための障害。特殊教育の指導者は、特殊教育学生のIEPに含める必要が、社会的行動と自己擁護のスキルに対処するために他のチームメンバーを訓練しました。訓練は、障害者の社会的スキルの発達に影響を与え自閉症や学生と学生のニーズに対応するための技術が含まれています。コンプライアンス手順はDESEガイドラインに従って開発されました。

現在、アーリントン公立学校は、訓練を受けたり促進し、尊敬語の使用をモデル化し、次のプログラムでトレーニングスタッフの過程にありました、多様性と違いについての理解と尊重を促進し、関係や家族とのコミュニケーションを構築し、建設的に教室を管理します行動、学校や教室の計画と意思決定の学生に従事する;学生に正通信、怒りの管理、および他の人のための共感のための明示的なスキルを教える;正行動介入と建設的な懲戒慣行を採用し、すべての学生のための、安全で思いやりのある教室を維持します。

- 応答クラスルームトレーニング
- K-マインドのツール
- K5社会的思考（特殊教育と一般エド
-) K5- 開くサークルすべての小学校で
- -K6総合健康 グレートボディショップ
- K12 -ソーシャルメディア-Cyberいじめカリキュラム
- Grの。 68 -のリーダーをピア 差分の世界 プログラム
- グレード710総合保健計画
- 歴史自分自身に直面してグレード8
- Grの。 912 -諮問グループは、

スタッフへの通知を画面。

地区は、各学年とのウェブサイト上の記事、それをの初めに計画の年次通知をすべてのスタッフを提供します、

<http://www.arlington.k12.ma.us/administration/bullyingprevention/pdfs/apsbullyingpreventionplan.pdf> :
で初期いじめレポートフォームをポスト

http://www.arlington.k12.ma.us/eforms/staff_forms/Bullying_Initial_Suspected_Bullying_Report.pdf : そして、スタッフの業務や学校のスタッフによる生徒のいじめに関するセクションを含む新しい先生ハンドブックの情報が含まれています。学生に関連するセクションは、学生ハンドブックに含まれています。

III. れるリソースとサービスへのアクセス

アーリントン公立学校で識別さの現在のリソース：

各レベルの歳の時に適切な介入は、すべての学生、ターゲットと学生の侵略者、およびその家族に適切なのために提供されています。

- 各小学校で雇ったソーシャルワーカーが特定のグループやカウンセリングを提供目標と学生の侵略。
- 中学校のカウンセラーやソーシャルワーカーは個別に会うと識別されるような目標や学生の侵略のためのグループをリードしています。
- 高校レベルでは、ソーシャルワーカー、ガイダンスカウンセラー、および管理者は学生と会い、報告書のフォローアップすることが可能です。
- 両親は、各レベルで投与することによりサポートされています。親のためのリソースが含まれますが、年間に限定されません：
 - リソースは、障害を持つ生徒の親のためのウェブサイトに掲載しました（http://www.arlington.k12.ma.us/emergency_preparedness/pages/resources.html）
 - オープンサークル親ワークショップは、
 - 「良い選択を指導」ワークショップ
 - いじめに関する法律、ネットいじめや他の抗いじめ番組上の親フォーラム
 - 予防、介入、レスポンスとリカバリサイトの安全な学校を作成するなどのリソースをAntibullying、//www.arlington : HTTP (; 「。k12.ma.us/emergency_preparedness/) と報告フォーム
http://www.arlington.k12.ma.us/eforms/staff_forms/Bullying_Initial_Suspected_Bullying_Report.pdf
地区や学校のウェブサイト上で
 - 要求に応じて、重要な情報は、英語以外の家庭の言語で両親のために変換されます

人事資源

- 教師の
- 指導カウンセラー
- ソーシャルワーカー-一般教育と特殊教育
- 学校心理士
- 学校の看護師
- 管理者
- コーチ
- アーリントン青少年相談センターをに-学校と外部のリソースに
- 学校ベースの安全チーム

- 英語学習課とコラボレーション
- 他の町の機関：警察、人権委員会、委員会障害者の

カウンセリングやその他のサービス

- アーリントンに、学校の外にカウンセリングを提供する多くの外部の機関との長年の関係を持っています。一つの例では、グループおよび個々のカウンセリングを提供し、頻繁にだけでなく、家族をフォローアップするために学校に招待されアーリントン青少年相談センター、です。、文化、言語、および/または金融ニーズを持つ家族や学生のための引当金も利用できるようになります。
- 各学校での管理者は、いじめや報復の対象となっている学生のための安全計画の作成を担当しています。また、教師は生徒がいじめを防止するための社会的スキルプログラムを提供し、ソーシャルワーカーやガイダンスカウンセラーがいじめ行動の初期の兆候を示す学生のための教育および/または介入サービスを提供しています。

障害を持つ学生が

- IEPチームが生徒の障害に悪影響社会的スキルの発達に影響を与え、および/または学生が参加することが判明することができるため、または彼/彼女の身体障害のいじめ、嫌がらせ、またはからかいに対して脆弱であると判断した場合、チームは何を考慮して避け、いじめ、嫌がらせ、またはからかいに対応するために、学生のスキルや習熟度を開発するIEPに含まれるべきです。
- システム内で利用可能なソーシャルワーカーの拡大に伴い、当社は、このような「心のツール」、「白丸」、「応答教室」と「社会的思考」などの社会的能力プログラムで研修を拡張することができました。

外部のサービスへの紹介

アーリントンは学校の外のサービスで家族を提供するための参照プロセスを持っています。地区のウェブサイトは、ローカルエリアでの外部のリソースのブックが含まれています。

は、（

http://www.arlington.k12.ma.us/emergency_preparedness/files/physical_mental_health_resources.pdf

IV. 学術・NONACADEMIC活動は

アーリントン公立学校は、その総合的な健康プログラムと学校ワイドクロスカリキュラムの一環として、いじめの防止と社会的能力を備えて取り組み。正の関係を構築する資する教室や学校の環境を作成するために、教師をサポートする学校の文化を確保することを目標。様々なアプローチは、異なるレベルで取られます。現在、我々は、学生のための以下のプログラムと教育のアプローチを使用している：

現在の場所でのAntibullyingプログラム：

オープンサークル、社会的思考、応答教室、心のツール、偉大なボディショップ、第二の工程と、差の世界、歴史自分自身に直面し、総合健康クラスは、デジタルリテラシー、家政学、発達指導プログラム、および高校諮問グループは、以下のスキルが含まれており、学生のためのアプローチ：

- スクリプトと役割を使用してスキルを開発するために果たしている。
- 行動を取るために学生をエンパワーするとき何をするべきかを知ることによって、

彼らは大人の援助を求めているなど、いじめや報復の行為に従事し、他の学生や学校職員を目撃します

- 、支援する学生は、基本的な電力の不均衡などのいじめやネットいじめのダイナミクスを理解し
- 電子通信技術の安全かつ適切な使用を含め、サイバー安全性を重視し。
- 健全な関係に従事するために、学生のスキルを強化します腰と敬意通信、および
- 多様性と差異の尊重である安全、支援学校環境における係の学生。

計画の構成要素、および法律は学校の校長による今年の初めに、毎年学生に見直されます。

いじめ防止の取り組みをサポートする一般的な教育のアプローチは、の次とおり

- 行動、教室のルーチン、および安全性に関する学生のための明確な期待を設定します。
- モデル、教育、そしてやりがいの向社会的、健康、および敬意生徒の行動
- 障害を持つ生徒、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、そしてホームレス学生を含むすべての学生のための相違の感謝を取り入れ、安全、学校や教室環境を作成。これは、上記のプログラムの実施を通じて起こるだけでなく、特別なアセンブリは、システムによって上に置き、などゲイストレートアライアンス、ドラマ部門、人権委員会、および名誉毀損防止同盟、などのグループは、
- 軽蔑的な発言にすぐに対応し、いじめのすべて疑わ発生率を報告し
- ガイダンスカウンセラーやソーシャルワーカーからの支援を受けて、学生は規律を必要とした場合であっても、適切かつ陽性反応と強化を使用して
- 正の学生の教師との関係を促進技術の実装
- こうした協調的問題解決として行動への積極的なアプローチを強化、紛争解決、チームワーク、そして第二段階では、正の行動や健康、社会的、情緒的発達を練習する機会、白丸、応答教室、グレート・ボディショップ、心のツール、社会的思考、差の世界、高校諮問グループ、および健康教室。
- 指導、健康で議論するメディアやインターネットの安全性情報と本格的ジレンマを学生に提供し、他の分野は
- 、特に関心と強さのその地域では、非学術および課外活動で、生徒の関心と参加を支援：
 - 学校のプログラム後
 - クラブ
 - レクリエーションプログラムの

V. ポリシーと手続き指摘し、いじめや報復への対応は、

アーリントン公立学校の管理とスタッフが報告し、地区内いじめへの対応の手順については、一般的な計画を開発しました。学校委員会の方針及び手続のサブ委員会は、行政と共同で、いじめ予防ポリシーを開発：<http://www.arlington.k12.ma.us/asc/policies/jicfb.pdf> 私たちは、いじめが発生したときに報告し、対応するための手続きに毎年職員、学生や保護者を教育します。

いじめや報復を報告します

- すべてのスタッフが気付いたかについてのいじめや報復のインスタンス、または目撃者はすべての学校や地区の職員は、（以下に提供として、または他の学校職員）すぐに校長に報告する必要がある。これは、他の学生またはスタッフによる学生がいじめが含まれています。
- スタッフ、生徒、保護者、その他はおよび/または書面または電子メールにより経口また

はボイスメールによるいじめや報復を報告することがあります。口頭の報告が記録されます。生徒、保護者、そして他の人が報告書を完了するために、スタッフからの支援を要請することができます。学生はスタッフとの、または校長または指名でいじめの事件を報告し、議論するための実用的、安全、プライベートと年齢に適切な方法を提供しています。

- 学校や地区の職員でない生徒、保護者、または他の個人によって行われた報告書は、口頭または書面で、匿名で行うことができる、とも記録されます。しかし、何の懲戒処分は、単に匿名の報告書に基づいて主張した侵略者に対して取られません。
- 学校のスタッフは、親や保護者らによる報告書は、一般的に校長または指名されたいです。本人が申し立てられた侵略者である場合には、報告書は、警視になされるべきです。このような状況では、警視または指名は、この計画と主張した被害者の安全のために提供することを含む他の該当地区の方針や手順、に応じて適切な行動を取るための責任を負うこととなります。警視は疑惑の侵略者である場合は、報告書は、この計画と主張した被害者の安全のために提供することを含む他の該当地区の方針や手順、に応じて適切な行動を取るための責任を負わなければならない学校委員会になされるべきです。
- インシデント報告書は両親、スタッフ、そしてのためのウェブサイトに掲載されて学生います。(http://www.arlington.k12.ma.us/eforms/parent_forms/Bullying__Initial_Suspected_Bullying_Report.pdf)
- インシデント報告書式は、レポートを作るの条件として要求されていません。
- 報告手続きなどのいじめ防止計画およびインシデント報告書式のコピーへのリンクは、スタッフに提供し、親または保護者のための年の初めに家に送られます。ハードコピーは要求してそれらのために家を郵送されます。レポートのフォームとアーリントンのいじめ防止計画は、学校のメインオフィス、カウンセリングオフィスや学校の看護師のオフィスでもご利用いただけます
- インシデント報告書は、要求に応じて他の言語で利用できるようになります。
- 校長または指名の連絡先情報を含む報告手順やリソースの説明は、学校や地区のウェブサイト上で、学生や職員ハンドブックに組み込まれ、そして親や保護者、すべてのスタッフ、そしてすべての学生が利用できるようになります。

A. 学生によるいじめや報復の申し立てへの対応。

安全性は

- 完全にいじめや報復の申し立てを調査する前に、校長または指名は、疑惑の対象に安全性の感覚を復元するために、および/または可能な更なる事件から疑惑の対象を保護する必要性を評価するための手順を実行します。安全性を促進するための応答が含まれるが、個人の安全計画を作成、に限定されず、昼食時、またはバスで、教室での疑惑の対象および/または学生の侵略のための座席配置を予め、行動するスタッフを特定しますターゲットのための「安全な人物」として;および侵略のスケジュールを変更し、
-

ターゲットへのアクセス。校長または指名はこの過程で、必要に応じて調査した後、安全を促進するために、追加の実行を行います。

- 校長または指名は、いじめや報復を報告したすべての学生をいじめたり報復から守るための適切な戦略を実装し、いじめや報復を目撃いじめや報復の報告行為に関する信頼できる情報を持っている、または調査中の情報を提供しました。

他のユーザーに通知する義務は

- **親や保護者に注意してください。**

いじめや報復が発生したと判断すると、校長または指名は、速やかに、ターゲットとこののと、それに対応するための手順の学生の侵略者の両親または保護者に通知します。前の任意調査への主要または指名の連絡先親や保護者の状況があるかもしれません。

- **別の学校や地区に注意してください。**

報告された事件は、複数の学区、チャータースクール、非公立学校の学生が含まれている場合、プライベート特殊教育の日や住宅、学校、または共同の学校を承認し、最初の事件を知らさ校長または指名は、速やかに電話校長または指名で通知しますインシデントの他の学校（複数可）の各学校は、適切な行動を取ることができるようになっています。

- **法施行に注意してください。**

校長または指名は、刑事責任は侵略者に対して追求することができると思える合理的な根拠がある場合、調査の後、いじめや報復、含むの報告を受けた後の任意の時点で、校長は地元の法執行機関に通知します。彼または彼女は合理的な基礎

を持っている場合にも、事件は学校の敷地と、もはや学校に在籍している21歳未満の元学生が関与、校長または指名の連絡先の学校のリソース役員や地域の法執行機関で発生した場合刑事責任は学生の侵略者に対して追求することができると思っています。この決意をするには、校長は、学校のリソース官と協議し、他の個人校長または指名は、適切な計画と整合し、該当する学校や地区の方針や手順を考えます。

調査

- 校長または指名は、速やかにいじめや報復のすべてのレポートを調査し、そうすることで、疑惑（S）の性質と関係する学生の年齢層を含む公知の入手可能なすべての情報を、検討していきます。
- 調査中に校長または指名は、必要に応じて、学生、職員、目撃者、保護者、および他の人をインタビューすることがあります。校長または指名は報復を固く禁止されており、懲戒処分につながると主張した学生の侵略者、ターゲット、および目撃者を連想させます。
- 程度の実用的な調査や問題に対処するために彼/彼女の義務を与えられ、校長または指名や他のスタッフは、調査プロセス中に機密性を維持します。校長または指名や他のスタッフは、調査の書かれた記録を維持します。調査と確認されている学生によるいじめのすべての行為はPowerschoolに記録されています。
- いじめや報復の報告を調査する手順については、調査のための学校や地区の方針と手順と一致しています。必要に応じて、校長または指名は、調査について弁護士に相談します。

決定

- プリンシパルをまたは指名は、事実および状況のすべてに基づいて、決意をします。調査、いじめや報復が実証された後、場合、校長または指名は、合理的に再発を防ぐために、ターゲットが学校に参加したり、学校活動の恩恵を受けに制限されていないことを保証するために、計算の手順を実行します。主又は指名：1) であれば、是正措置が必要であるかを決定し、2) 是正処置及び/又は懲戒処分が必要であるかを判断します。懲戒処分は、学生のための行動の学校コードと対象年齢のガイドラインの範囲内、管理者の裁量に任されています。
- 状況に応じて、校長または指名は、学生の教師（複数）および/または学校のカウンセラーに相談することを選択することができ、ターゲットのか、学生の侵略者の親や保護者は、任意の根底にある社会的、感情的な問題（複数可）を有することができる識別するために、いじめの行動に貢献し、学生のための追加的な社会的スキルの支援の必要性のレベルを評価します。
- 校長または指名は、速やかに調査の結果について、目標と学生の侵略者の両親または保護者に通知し、いじめや報復が発見された場合、どのような行動は、いじめや報復の更なる行為を防ぐために取られています。両親へのすべての通知が該当する州および連邦プライバシー法や規制を遵守しなければなりません。そのため、学生記録の機密保持に関する法的要件の、校長または指名は、それが「離れ」の順序またはターゲットが注意する必要があることを他のディレクティブが含まれない限り、撮影した懲戒処分について、対象者の親または保護者に固有の情報を報告することはできません違反を報告するためです。

いじめへの対応

まず。skillbuildingによる教育適切な行動

- いじめや報復が発生したと判断した校長または指名の際、校長、教師、学校のカウンセラーは、動作が停止したことを確認するために、学生との関連スタッフと連携して動作し。学校の校長または指名は、フォローアップや行動を監視します。
- 主な連絡先スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、または特殊教育の教師は、適切な介入（S）とスキルの建物が対象と学生の侵略の両方のための場所に置かれるべきかを決定します。

ソーシャルワーカー、ガイダンスカウンセラー、教師、特別な教育者、看護師、および管理者が個別サポート、グループの介入、および学生のための様々な技術で事件をいじめへの対応：

- ソーシャルワーカー/カウンセラーとの個別カウンセリング
- 小グループカウンセリング（ランチバンチ）
- その他の戦略教師支援チーム（TAT）または学生支援、リスクでは、と学習チームが開発し、介入
- 学生のための継続的な支援や相談、カウンセラー、教師、看護師、および/または管理者がとすなわちチェックイン
- 教室の社会的コンピテンシー命令
- アセンブリおよび特別プログラムアドレス、学校の気候、いじめ、傍観者など
- ホームで社会的・情緒的発達のためのスキルやテクニックを強化するために親を支援するウェブサイトや学校の掲示板の地域と学校の話フォーラム、教育団体、およびリソース
- さらなる介入（S）とみなされるとき教師の支援チーム（TAT）または学生支援することにより、適切なリスクでは、そして学習チームの
- 、スキル開発、安全性やIEPチームによって決定される適切なリソースを提供に焦点を当てて個別教育計画は

懲戒処分を取る

- 校長または指名は懲戒処分が学生のために適切であると決定した場合、懲戒処分は、に基づいて決定されます行為の性質上、関係する学生（複数可）の年齢、および適切な行動の指導と説明責任のバランスをとる必要性を含む校長または指名、認定した事実。
- 懲戒処分は、計画とし、学校や行動の地区のコードと一致しています。校長または指名は、生徒が故意にいじめや報復の虚偽の申し立てをしたと判断した場合、その学生は、同様に懲戒処分の対象となります。
- 特殊教育部門は、障害者教育法（IDEA）、504 ADA、および州の規制と個人の遵守を確保するために相談しました。

ターゲットおよびその他のための安全を促進することは

- 校長または指名調整が、もしあれば、対象者の安心感と他人のそれを高めるために、学校の環境で必要とされているものを考えています。
- 主または指名は、遷移時間でいじめが発生したことが知られている又は発生しやすくなっている場所で大人の監督を増加させます。
- 決意と是正および/または懲戒処分の発注以下の合理的な期間内に、校長または指名の連絡先の目標は、禁止行為の再発があったかどうか、追加の支援策が必要かどうかを判断します。その場合、校長または指名は、直ちにこれらを実装するために、適切な学校職員で動作します。

B. 学校職員によるいじめの申し立てを受けて

- 学校のスタッフによる学生の疑惑いじめの報告を受けた、校長/指名は、本プランに応じた適切な行動を取るとを提供するなど、他の該当地区の方針や手順、責任となります疑惑の対象の安全性、必要な場合。本人が申し立てられた侵略者である場合には、警視/指名者は、そのような行動に責任を持たなければなりません。イベントでは警視は、疑惑の侵略で、学校委員会/指名者は、そのような行動に責任を持たなければなりません。
- 深刻な自然の苦情の対象であるスタッフが速やかに通知されますし、彼/彼女はそれらを見ていると、該当する団体協約を含む地区の方針と手順に従って、事実を提示する機会を与えます。
- スタッフによるいじめや報復の報告を調査するための手順は、スタッフが他の疑惑の不正行為の調査のための地区の方針と手順と一致しています。必要に応じて、指定された学校の関係者は、このような手続きについて弁護士に相談します。適切と思われるような調査は、職員、学生や他の人のインタビューを含むことができます。学校関係者は、真実であることの重要性（1）その報復を厳しく禁止されており、懲戒処分及び（2）になります個人を思い出させます。する義務与えられた実用的な範囲で

問題で疑惑を調査し、対処、学校関係者は、調査プロセス中に機密性を維持します。

- 指定された学校の職員がスタッフはのいじめや学生に対する報復に従事していると判断した場合には、生徒の親/保護者は、さらに、そのような行為を防止し、安全性の学生の感覚を復元するために取られているもののアクションが通知されます。両親へのすべての通知が該当する州および連邦プライバシー法や規制を遵守しなければなりません。そのため人事記録の機密保持に関する法的要件のため、学校の関係者は、それが「離れ」の順序また

はターゲットが注意する必要があることを他のディレクティブが含まれない限り、撮影した任意の懲戒処分について、対象者の親または保護者に固有の情報を報告しません違反を報告するためです。

- イベントDにおいて従業員に対するdisciplinary作用が検討されている、適切なデュー・プロセスが提供されます。課せられた任意の懲戒処分は、従業員の役割と責任の光の中で指定された学校の公式と適切な基準や期待によって認定した事実に基づいてされます。学校関係者は、スタッフによるいじめの確認行為を記録する方法を開発します。

C. 問題解決システム

にかかわらず、いじめの決意の結果の、校長または指名は、小学校のマサチューセッツ州省と中等教育の問題解決システムと、そのシステムにアクセスするためのプロセスに関する対象の親または保護者に通知しなければなりません。

クレーム/懸念を提出したいか、小学校のMA学科と中等教育問題解決システム（PRS）とそうかもしれ学区外の援助を求めている任意の親。PRSに関する情報はで見ることができます <http://www.doe.mass.edu/pqa> または個人がにメールを送ることができます compliance@doe.mass.edu あるいはまた7813383700.を呼び出すことができ、監督のオフィスは、PRSに関する情報のハードコピーを持っています。

I. 家族と

アーリントンには、過去20年間の強い親教育プログラムを持っていたCOLLABORATION。新たな問題が発生すると、インターネットやネットいじめ、及び新カリキュラムの危険性が実装されているような、プログラムは無料でコミュニティにすべての親に提供されています。地区は、親の参加は、学生の教育の重要なコンポーネントであり、何の学区は親の支援と関与することなく、すべての学生のニーズと開発に対処することができないということを認識しています。

- 私たちの地区のウェブサイトは、含まれる「安全な学校の作成：予防、介入、レスポンスとリカバリーを、」安全といじめ防止上のリソースのホストを持っています。
- 毎年地区はいじめの社会的能力、学校の気候、多様性と他のフォーム上の親ワークショップを提供しています、どのようにターゲットと侵略への対応、自宅で社会的スキルと戦略を強化するために、両親や保護者を教えるための努力で、それらを教育します学校と地区計画を支援するためのソーシャルメディアと。すべての親プログラムは、地元紙で宣伝しワット私たちの地区にあり、ebsiteます。（<http://www.arlington.k12.ma.us/home/>）これらのプログラムは、学校のPTO、学校協議会、特殊教育の親諮問委員会、および他の教育機関との連携で提供されています。

親の教育とリソース：

- 毎年の両親は、健康教室でカバーいじめ防止のトピックの概要を説明し、「親通知法を、」受け取ります。初級レベルで素晴らしいボディショップ親速報警告各ユニットに覆われているトピックについての両親だけでなく、戦略や家庭でのフォローアップのためのアイデア。学校オープンハウスイベントは、毎年秋には、健康のトピックに関する情報やシラバス覆われているを提供しています。
- 自宅に送られた毎年恒例の親通知書が含まれています：疑いじめインシデントレポートフォームの報告プロセスと場所のいじめやサイバーいじめのダイナミクスに関する情報を、。
- いじめ予防と介入プランは、学校とて地区のウェブサイトに掲載されて 学生について、

毎年親の書面による通知に加え、計画の関連セクションと地区のインターネットの安全政策。

- 利用規定は、生徒と親/保護者のサインオフが必要です。どちらのサイバーいじめの対処行動規範を、参照します。
- 親や保護者の間で最も普及している言語（複数可）で、そのような電子メール、ハードコピー、ウェブサイト、ケーブルテレビ、ワークショップ、PTOの、SEPAC、学校協議会、およびMetco社のプログラムとして多次元手段で様々な場所での情報のアクセシビリティ、通常、学校行事に参加していない両親への通信とアウトリーチを強化します。
- 特殊教育の学生は、その配置に適切な彼らの地区の学校を介してすべての一般教育の通信を受信します。彼らはまた、一般的な教育機関によって提供されるものと同じスケジュールで特殊教育サービスプロバイダからレポートを持っています。また、IEPチームは毎年会い、年間IEP提案の一環として、すべてのサービスに関連する通信計画を策定します。各建物におけるソーシャルワーカーは、個々の学生のニーズに基づいて導管又は専門的な通信を提供します。

II. いじめや報復の禁止

ネットいじめなどがいじめの行為、禁止されています。aでschoolsponsoredまたはschoolrelated活動で校庭のすぐ隣に校庭や財産上の（I）、機能、またはプログラム校庭をオンまたはオフにするかどうか、スクールバスの停留所は、スクールバスや、所有するリース他の車両に、あるいは学区や学校で使用される;または技術の使用または所有している電子デバイスを介して、リース、または学区や学校で使用すると

、（ii）技術の利用や行為がで敵対的な環境を作成した場合、所有するリース、または学区や学校で使用されていない電子デバイスを介して、学校関連のない場所、活動、機能、またはプログラムでターゲットや証人のための学校は、学校で自分たちの権利を侵害し、または重大かつ実質的には、教育プロセスや学校の規則的な操作を妨害します。、いじめを報告いじめの調査中に情報を提供し、または証人やいじめについての信頼できる情報を持っている人に対する報復行為も禁止されています。

MGL cで述べたように。 71は、370条、この計画には何も任意の非学校関連の活動、機能、またはプログラムをスタッフに地域や学校を必要としません。

III. 定義は

次の定義のいくつかの、MGLcから直接コピーされます。 71、以下に記載のように、370条。 アグ

レッサーはいじめ、いじめ、または報復に従事し、学生やスタッフメンバーです。

いじめ、MGL cで定義されています。 71、370条、ターゲット/被害者に向けられた一人の以上の学生によって書かれたか、口頭での学校職員のメンバー、または電子式または物理的な行為やジェスチャー、またはそれらの任意の組み合わせにより、繰り返し使用が、ということです。

ターゲットまたはターゲットの財産への損害への物理的または感情的な害を引き起こし、自分自身や自分の財産への損害のに害の合理的な恐怖にターゲットを置き、

ターゲットのための学校で敵対的な環境を作成し、権利を侵害対象の学校で、あるいは

重大かつ実質的な教育プロセスや学校の秩序操作が中断されます。

ネットいじめは技術や、電話、携帯電話、コンピュータ、インターネットなどの電子機器を使用し

ていじています。これは含まれていますが、電子メール、インスタントメッセージ、テキストメッセージ、およびインターネットへの投稿が、これらに限定されません。MGL cを参照してください。71、ネットいじめの法的定義については370条。

敵対的な環境MGL cで定義されている、。71は、§370は、いじめは学校の環境は、学生の教育の状況を変えるために十分に厳しいまたは普及して脅迫、嘲笑、または侮辱を浸透させている状況です。

報復は、脅迫、報復、またはいじめを報告し、学生に対して向け嫌がらせのいずれかの形でいじめの調査中に情報を提供し、または証人やいじめについての信頼できる情報を持っています。

スタッフは、これらに限定されないが、教育者、管理者、カウンセラー、学校の看護師、食堂の労働者、カストディアン、およびバスドライバ、および運動コーチ、課外活動、サポートスタッフ、またはparaprofessionalsに顧問。

ターゲット/被害者がいじめ、いじめ、または報復を犯してきた人に対して学生です。

IV. 他法律との関係

の州および連邦法と一致して、学校や地区の政策は、何人も、いかなる町の公立学校への入学や利点、特典や、公立学校の勉強のコースを得ることに差別してはなりません人種、肌の色、性別、宗教、国籍、または性的指向のアカウントで。計画では何も地方、州、または連邦法、あるいは学校や地区の方針の下で法的に保護されたカテゴリに人のメンバーシップに基づいて差別やハラスメントを修復するためにアクションを取ってから、学校や地区を防ぎません。

また、計画の何も設計されていないか、MGLのCの下で懲戒処分やその他の行動をとるために、学校や地区の権限を制限することを意図しています。71、§§37Hまたは37H½、MGLのC。71、§§42または42D、その他の適用法令、またはかかわらず、計画が行動をカバーしているかどうかの学生やスタッフによる、暴力的な有害、破壊的、またはその他の不適切な行動、に応じて、地元の学校や地区の方針。